

# 小学校 外国語活動・外国語

## 1 教育課程実施上のポイント

### (1) 目標



小・中学校すべての段階において「言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成すること」を目指します。「言語活動」とは、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味します。情報を整理しながら考えなどを形成するといった「思考力、判断力、表現力等」が活用されると同時に、英語に関する「知識及び技能」が活用されることとなります。

【外国語活動】	【外国語】
<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>
<p>(1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。</p>	<p>(1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。</p>
<p>(2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。</p>	<p>(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。</p>
<p>(3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>	<p>(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>

### 【中学校外国語】

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(以下省略)

小・中の連携を重視し、それぞれの目標を関連づけて段階的に目標を示しています。小学校までの学習の成果が中学校教育に円滑に接続され、育成を目指す資質・能力を児童に身に付けさせることが大切です。



◆各言語の目標〔英語〕 第3・4学年

聞くこと	ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。 イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。 ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする。
話すこと (やり取り)	ア 基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりするようにする。 イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。 ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。
話すこと (発表)	ア 身の回りの物について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。 イ 自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。 ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

◆各言語の目標〔英語〕 第5・6学年

◀ 内容のまとめ

聞くこと	ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。 イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。 ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。
読むこと	ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。 イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。
話すこと (やり取り)	ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。 イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。 ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。
話すこと (発表)	ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。 イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。 ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
書くこと	ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。 イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、 <u>例文を参考に</u> 、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて <u>書く</u> ことができるようにする。

外国語の学習においては、語彙や文法等の個別の知識がどれだけ身に付いたかに主眼が置かれるのではなく、児童生徒の学びの過程全体を通じて、知識・技能が、実際のコミュニケーションにおいて活用され、思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて獲得され、学習内容の理解が深まるなど、資質・能力が相互に関係し合いながら育成されることが必要である。

## (2) 実施上のポイント

### ①改訂のポイント

#### ◇基本方針について

小学校中学年から外国語活動を導入し、「聞くこと」、「話すこと」を中心とした活動を通じて外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高めた上で、高学年から発達の段階に応じて段階的に文字を「読むこと」、「書くこと」を加えて総合的・系統的に扱う教科学習を行うとともに、中学校への接続を図ることを重視する。

#### ◇目標について

小・中・高等学校で一貫した目標を実現するため、そこに至る段階を示すものとして国際的な基準などを参考に、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」の五つの領域で英語の目標を設定している。また、外国語科の目標については、学年ごとに示すのではなく、より弾力的な指導ができるよう、2学年間を通した目標とした。

#### ◇内容について

外国語教育において育成を目指す三つの資質・能力を確実に身に付けられるように、小・中・高等学校を通じた領域別の目標の下で、体系的に構成を整理している。

### ②「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」について

外国語によるコミュニケーションの中で、  
どのような視点で物事を捉え、  
どのような考え方で思考していくのかという

物事を捉える視点や考え方



外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること

相手の立場や状況に配慮することは、多様な考え方や価値観をもった人たちと円滑にコミュニケーションを図る上で、とても重要な考え方です。

初めて外国語に触れる小学校段階では、相手が話す外国語を注意深く聞いて何とか相手の思いを理解しようとしたり、自分のもっている知識を総動員して相手や他者に外国語で自分の思いを何とかして伝えようとしたりする体験をさせましょう。

これらの経験を通して、言語でコミュニケーションを図る難しさや大切さを改めて意識させることが、言語によるコミュニケーション能力を身に付ける上で重要であり、言語への関心を高めることにつながります。



### ③主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。その際、具体的な課題等を設定し、児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現などの知識を、五つ（三つ）の領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図る。

◇「主体的な学び」の実現に向けた授業改善のポイント（例）

- ・コミュニケーションを図る目的、場面、状況等を明確に設定する
- ・学習の見通しを立てたり振り返ったりする場面を設ける
- ・発達の段階に応じて、子どもが興味・関心をもつ題材を取り上げたり、身の回りのことから社会や世界との関わりを重視した題材を設定したりする

◇「対話的な学び」の実現に向けた授業改善のポイント（例）

- ・単元に、情報や考えや気持ちを他者と伝え合う活動を設定する
- ・他者の考えに触れて自身の考えを振り返ったり深めたりするよう促す

◇「深い学び」の実現に向けた授業改善のポイント（例）

- ・「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱がバランスよく育成されるように年間指導計画・単元計画を作成する
- ・コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確にした言語活動を設定する
- ・聞いたり読んだり、話したり書いたりする必然性のある言語活動を設定する

(3) 評価について

① 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気づき、これらの知識を理解している。</li> <li>・読むこと、書くことに慣れ親しんでいる。</li> <li>・外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。</li> <li>・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、音声で十分慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。</li> </ul>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>

② 「評価規準」を作成する際の手順について



小学校外国語科における「内容のまとめ」とは、小学校学習指導要領 第2章第10節外国語 第2各言語の目標及び内容等 英語 1 目標に示されている「五つの領域」のことです。  
 (「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やりとり)」「話すこと(発表)」「書くこと」)  
 ※前述の1(1)目標 ◆「各言語の目標〔英語〕 第5・6学年」参照

- 手順1** 外国語科における「内容のまとめ」の記述が、観点ごとにどのように整理されているかを確認する。
- 手順2** 「内容のまとめ(五つの領域)ごとの評価規準」を作成する。
- 手順3** 「外国語科の目標」「五つの領域別の目標」「内容のまとめ(五つの領域)ごとの評価規準」等に基づき、各学校が児童の実態等に応じて学校の「学年ごとの目標」及び「五つの領域別の『学年ごとの目標』」を設定した上で、「単元ごとの評価規準」を作成する。

※学習指導要領 3 指導計画の作成と内容の取扱い(1)指導計画の作成上の配慮事項 (1)イ「学年ごとの目標を適切に定め、2学年を通じて外国語科の目標の実現を図るようにすること。」と記されている通り、各学校で「学年ごとの目標」の設定が求められる。ただし「外国語科の学年ごとの目標」については、第5学年、第6学年でそれほど大きな違いがないものになり、ほぼ「外国語科の目標」と同じになることも考えられる。また「五つの領域別の学年の目標」も同様である。

◇外国語科における評価規準（例）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を <u>理解している</u> 。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、自分のことや身近で簡単な事柄などについて話される簡単な語句や基本的な表現や、日常生活に関する身近で簡単な事柄について具体的な情報を <u>聞き取る技能を身に付けている</u> 。	コミュニケーションを行う目的や、場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄などについて話されるのを聞いて、その <u>概要を捉えている</u> 。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語で話されたものを <u>聞こうとしている</u> 。
読むこと	[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を <u>理解している</u> 。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、活字体の大文字・小文字を <u>識別したり</u> 、その読み方を <u>発音したりする技能を身に付けている</u> 。	コミュニケーションを行う目的や、場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄などについて書かれた簡単な語句や基本的な表現を読んで、 <u>意味が分かっている</u> 。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語で書かれたものの意味を <u>分かろうとしている</u> 。
話すこと（やり取り）	[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を <u>理解している</u> 。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常生活に関する身近で簡単な事柄についての自分の考えや気持ち、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて <u>伝え合う技能を身に付けている</u> 。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄についての自分の考えや気持ち、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて <u>伝え合っている</u> 。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語を用いて <u>伝え合おうとしている</u> 。
話すこと（発表）	[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を <u>理解している</u> 。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分のこと、身近で簡単な事柄についての自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて <u>話す技能を身に付けている</u> 。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分のこと、身近で簡単な事柄についての自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて <u>話している</u> 。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語を用いて <u>話そうとしている</u> 。
書くこと	[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を <u>理解している</u> 。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、活字体の大文字・小文字を <u>書く技能を身に付けている</u> 。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事項などについて、簡単な語句や基本的な表現を <u>書き写したり</u> 、自分のことや身近で簡単な事柄について、 <u>書いたりしている</u> 。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語を用いて <u>書き写したり書いたりしようとしている</u> 。

③指導要録への記入について

小学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）小学部における外国語活動の記録については、評価の観点<sup>1</sup>を記入した上で、それらの観点に照らして、児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入する等、児童にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述する。評価の観点については、設置者は、小学校学習指導要領等に示す外国語活動の目標<sup>2</sup>を踏まえ、評価の観点を参考に設定する。

## 2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

(1) 単元名 We Can! 1 Unit 2 When is your birthday? (第5学年)

### (2) 単元の目標

自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなど、具体的な情報を聞き取ったり、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて伝え合ったりできる。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。

※なお、本単元における「書くこと」については目標に向けて指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。

### (3) 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<p>&lt;知識&gt; 月日の言い方や、I like/want～. Do you like/want～? What do you like/want? When is your birthday? その答え方について理解している。</p> <p>&lt;技能&gt; 誕生日や好きなもの、欲しいものなど、具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。</p>	相手のことをよく知るために、誕生日や好きなもの、欲しいものなど、具体的な情報を聞き取っている。	相手のことをよく知るために、誕生日や好きなもの、欲しいものなど、具体的な情報を聞き取ろうとしている。
話すこと「やり取り」	<p>&lt;知識&gt; 月日の言い方や、I like/want～. Do you like/want～? What do you like/want? When is your birthday? その答え方について理解している。</p> <p>&lt;技能&gt; 誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、I like/want～. Do you like/want～? What do you like/want～? When is your birthday?等を用いて、考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。</p>	自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、自分や相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。	自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、自分や相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。

※単元のまとまりの中で適切に評価を実施するためには、観点別学習状況を記録に残す場面等を精選し、単元の計画を立てる段階から、評価時期や場面、評価方法等を考えておくことが重要であり、そのことを踏まえ、以下のとおり指導と評価の計画を作成した。

### (4) 「聞くこと」・「話すこと[やり取り]」に焦点をおいた単元の指導と評価の計画

時	目標	知	思	主
1	月名の言い方を知る。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。			
2	月名を聞いたり言ったりすることができるとともに、日付の言い方を知る。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。			
3	誕生日や好きなものを聞き取ることができる。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。			
4	誕生日や好きなもの、欲しいものを聞き取ったり、それらについて尋ねたり答えたりして伝え合ったりすることができる。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。	聞		
5	相手のことをよく知るために、誕生日などについて短い話を聞いて、具体的な情報を聞き取ったり、誕生日や好きなもの、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合ったりすることができる。また、活字体の大文字を書くことができる。		聞	聞
6	自分のことをよく知ってもらったり相手のことを知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。	や		
7	自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。		や	や



日々の授業の中で児童の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことが重要です。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する必要があります。

(5) 授業展開例 <第7時>

【本時目標】

自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。

学習活動	指導・支援、留意点 ◎評価<方法> ●指導改善例
<p>1 挨拶をする。 【Let's Chant】 When is your birthday? 音声に合わせてチャンツを言う。</p> <p>2 【Activity】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バースデーカードの相手を探し、他者に配慮しながらカードに書かれていることについてやり取りをする。</li> <li>・お祝いの気持ちを込めてカードを渡す。</li> <li>・活動の途中で、やり取りが長く続いたペアがデモンストレーションする。</li> <li>・友達について気付いた意外な一面や知ることができてよかったことや嬉しかったことなどを交流する。</li> </ul> <p>例)</p> <p>S1: Hello! S2: Hello! S1: When is your birthday? S2: My birthday is February 15th. S1: I'm sorry. I don't have your card. Goodbye. S2: Goodbye.</p> <p>S1: Hello! S2: Hello! S1: When is your birthday? S2: My birthday is March 14th. S1: March 14th. Oh, this is your birthday card. S2: Thank you very much.</p> <p>S1: Do you like blue and white? S2: Yes, I do. I like blue very much. What color do you like? S1: I like yellow. S1: This is for you. Here you are. Happy birthday! S2: Thank you very much.</p> <p>3 【STORY TIME】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Kazu と Maria の絵本の読み聞かせを聞く。</li> </ul> <p>4 本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。 挨拶をする。</p>	<p>・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。</p> <p>・児童の実態により、チャンツの種類やスピードを選ぶ。</p> <p>好きなものやほしいものについて伝え合おう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童を、カードを届ける側ともらう側に分ける。</li> <li>・他者に配慮した気持ちのよいやり取りの具体例について全員で意見を出し合い、共通理解を図ってから活動を始める。</li> <li>・進め方の例を示す。</li> <li>●活動の途中で中間評価をして、会話のモデルとなるよいやり取りの具体例を示し、児童が自分の後半の活動のめあてを決めた上で、後半の活動を開始するとよい。</li> <li>●活動後には、バースデーカードを通して気付いた友達の意外な一面などについて交流させ、児童の「互いのことを知りたい」という気持ちを高めるようにする。</li> <li>◎自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合っている。&lt;行動観察&gt;</li> <li>◎自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。&lt;行動観察&gt;</li> </ul> <div data-bbox="708 1070 869 1249" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【10の視点】 ⑥学び合う活動の充実</p> </div> <div data-bbox="879 1070 1439 1249" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>これまで身に付けた知識や技能を活用して、友だちとの対話をするを通して情報をやり取りし、得られた情報を整理したり比較したりして、自分の情報を再形成させていきます。対話的な学びが大切です。</p> </div> <div data-bbox="746 1267 847 1413" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="879 1267 1439 1413" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>相手の理解を確かめながら話したり、相手が言ったことを共感的に受け止め、言葉を返しながらかいたりすることが大切です。「相手意識」がポイントです。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本を読み聞かせる際には、一方的に絵本の台詞を読むのではなく、児童と各ページにある様々なイラストや話の筋についてやり取りしながら読むようにする。そうすることで、話の筋についての理解を助けるとともに、児童を絵本の世界に引き込む。</li> <li>・高学年で扱っている絵本のページに記されている台詞は、やがて児童が読み聞かせを聞きながら絵本の台詞を指で追って聞いたり、自分で読むことに挑戦したりすることを想定し、短く単純なものである。よって、指導者が台詞以外の言葉を加えながらやり取りを行い、児童の想像を膨らませるようにする。</li> <li>・指導者は、ジェスチャーを付け、表情豊かに読む。これらも児童にとっては、物語の筋を理解する上で大切な情報源となるため、デジタル教材を使って読み聞かせをする場合も同様の工夫を行う。</li> </ul> <p>・本時のねらいに照らして児童を評価する。</p> <p>・挨拶をする。</p>
	<div data-bbox="379 1960 566 2098" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【10の視点】 ⑩学習評価の推進</p> </div> <div data-bbox="571 1960 1439 2098" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>一人一人の学習状況や実現状況を把握し、個に応じた手立てや支援を行います。本時の評価を次時に生かします。児童に自分自身の学びの成長を実感させることが大切です。これらが「学びに向かう力、人間性等」の涵養につながります。</p> </div>

# 中学校 外国語

## 1 教育課程実施上のポイント

### (1) 目標

#### 【中学校外国語】

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

外国語科の主たる目標は、「簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する」ことである。そのために、(1)で「知識及び技能」、(2)で「思考力・判断力・表現力等」、(3)で「学びに向かう力、人間性等」の三つの資質・能力を明確に示し、「各学校段階の学びを接続させる」とともに、「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にする、という視点から改善・充実が図られている。

#### ◆各言語の目標〔英語〕 ※変更点のみ記載

話すことの領域が、「やり取り」と「発表」に分けられた。

話すこと (やり取り)	ア <u>関心のある事柄</u> について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。 イ <u>日常的な話題</u> について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。 ウ <u>社会的な話題</u> に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。
話すこと (発表)	ア <u>関心のある事柄</u> について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。 イ <u>日常的な話題</u> について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。 ウ <u>社会的な話題</u> に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。

- \* 「関心のある事柄」から「社会的な話題」まで扱うことで、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などをより幅広く設定することを可能にしています。
- \* ウでは、「聞くこと」「読むこと」という、他の領域の言語活動と有機的に関連付けた、統合的な言語活動を視野に入れた目標が設定されています。
- \* その他の領域についても、「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」を一体的に育成する目標を、段階的にア～ウの3項目で設定しています。



## (2) 実施上のポイント

### ①改訂のポイント

#### ◆基本方針について

外国語でコミュニケーションを行うために必要な資質・能力を育成するために、小学校の学びとの接続を意識しながら英語の目標を設定した。また内容においては、関心のある事柄から日常的な話題や社会的な話題まで取り上げて幅広いコミュニケーションを図ることを可能にするため、対話的な言語活動を重視し、学習した語彙や表現等を実際に活用する活動を充実させることで、言語活動の実質化を図った。

#### ◆内容について

- ・互いの考えや気持ちなどを伝え合う対話的な言語活動を一層重視する観点から、「話すこと[やりとり]」の領域を設定するとともに、言語の使用場面や言語の働きを適切に取り上げ、語、文法事項などの言語材料を効果的に関連付けた言語活動とするなどの改善・充実を図った。
- ・取り扱う語数について、小学校で学習する600～700語に加え、現行の「1200語程度の語」から五つの領域別の目標を達成するための言語活動に必要な「1600～1800語程度の語」に改訂した。
- ・文、文構造及び文法事項について、表現をより適切でより豊かにするなどの目的で、「仮定法のうち基本的なもの」や「現在完了進行形」など数項目を追加した。

#### ◆指導について

- ・小・中学校の接続を重視するとともに、学びの連続性を意識した指導をするために、指導計画の作成に当たっては、語彙、表現などを異なる場面の中で繰り返し活用することによって、生徒が自分の考えなどを表現する力を高める。
- ・言語材料については、発達の段階に応じて、生徒が受容するものと発信するものがあることに留意して指導する。
- ・授業は英語で行うことを基本とする。

### ②見方・考え方について

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは、外国語によるコミュニケーションの中で、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという、物事を捉える視点や考え方であり、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」である。「見方・考え方」の育成には、次のようなことが重要である。

- ◇社会や世界との関わりの中で事象を捉えたり、外国語やその背景にある文化を理解したりするなどして相手に十分配慮すること
- ◇多様な人々との対話の中で、目的や場面、状況等に応じて、既習のものも含めて習得した概念(知識)を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、課題を見いだして解決策を考えたり、身に付けた思考力を発揮させたりすること
- ◇適切な言語材料などを活用し、思考・判断して、情報を整理するとともに、自分の考えを形成、再構築すること



このような「見方・考え方」を働かせながら、自分の思いや考えを表現することなどを通じて、生徒の発達段階に応じて「見方・考え方」を豊かにすることが求められています。

### ③主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

主体的・対話的で深い学びを実現させるには、生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行うことが重要である。そのため、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況など」を設定し、生徒が理解し、外国語で表現し伝え合う力を育成するための学習過程の改善・充実を図る必要がある。

#### ◆外国語教育における学習過程

次の①～④の流れを踏まえ、学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動で活用したりすることで「思考力・判断力・表現力等」を高めていくことが大切である。

- |   |
|---|
| ①設定されたコミュニケーションの目的・場面・状況等の理解                    |
| ②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる |
| ③対話的な学びとなる目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う              |
| ④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う                       |

#### ◆「主体的・対話的で深い学び」について、授業改善を図る視点（例）

主体的な学び	主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどのように設定するか
対話的な学び	対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどのように設定するか
深い学び	学びの深まりをつくり出すために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善は、全く新たな学習活動を取り入れる趣旨ではなく、これまでも行われてきた学習活動の質を向上させることを主眼とするものであり、以下のことに留意する。

聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞く目的や場面、状況などを意識した活動とすること</li> <li>・自然なコミュニケーションを意識した活動を考えること</li> </ul>
話すこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かなやり取りを通して言葉の学習を促し、それを発表できる力へと育てること</li> <li>・最初から流暢かつ正確な言葉遣いで応答できることを求めすぎないこと</li> <li>・十分な準備をしてから発表するといった一定の型にこだわり過ぎず、即興的なやり取りの機会を十分に確保すること</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未知語の意味や発音を指導したり、文構造や文法事項を説明したりすることに過度に時間をとられるのではなく、そこで伝えられる意味内容に留意し、生き生きとした言語活動を展開すること</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>※「読むこと」や「書くこと」も、それが意味の伝達を重視している限りは、双方向の交流があるコミュニケーション活動である</li> <li>・何のために書くのかという目的や、誰に対して書くのかという読み手意識がもてるように、活動の提示方法、流れ、目標などを十分に考えて行うこと</li> </ul>

※「聞くこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「読むこと」、「書くこと」の五つの領域にわたる活動を、できるだけ有機的に関連させながら指導計画を考えることが重要である。

#### ④移行措置について

なし。ただし、中学校移行期間（平成30～令和2年度）のうち、令和元・2年度の1・2年生については、授業時間は追加せず、小学校・高等学校との接続の観点から知識・技能について新たに追加した内容と、それを活用して行う言語活動を計画的に指導する。

### (3) 評価について

#### ① 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。</li> <li>・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</li> </ul>

#### ② 「評価規準」を作成する際の手順について



中学校外国語科における「内容のまとめ」とは、中学校学習指導要領 第2章第9節外国語 第2各言語の目標及び内容 英語 1 目標に示されている「五つの領域」のことです。  
 (「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「書くこと」)

- 手順1** 外国語科における「内容のまとめ」の記述が、観点ごとにどのように整理されているかを確認する。
- 手順2** 「内容のまとめ(五つの領域)ごとの評価規準」を作成する。
- 手順3** 「外国語科の目標」「五つの領域別の目標」「内容のまとめ(五つの領域)ごとの評価規準」等に基づき、各学校が生徒の実態等に応じて学校の「学年ごとの目標」及び「五つの領域別の『学年ごとの目標』」を設定した上で、「単元ごとの評価規準」を作成する。

#### ◇外国語科における評価規準(例)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
聞くこと	[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を <u>理解している</u> 。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について、はっきりと <u>話された文章等を聞いて、その内容を捉える技能を身に付けている</u> 。	コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題については <u>はっきりと話される文章を聞いて、必要な情報や概要、要点を捉えている</u> 。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、 <u>話し手に配慮しながら、主体的に外国語を用いて聞こうとしている</u> 。
読むこと	[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を <u>理解している</u> 。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた短い文章等を読んで、その内容を <u>捉える技能を身に付けている</u> 。	コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について <u>書かれている短い文章を読んで、必要な情報や概要、要点を捉えている</u> 。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、 <u>書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いて読もうとしている</u> 。

話すこと (やり取り)	<p>[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を<u>理解</u>している。</p> <p>[技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について、<u>事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝え合う技能を身に付けている。</u></p>	<p>コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、<u>事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、伝え合っている。</u></p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、<u>聞き手、話し手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてやり取りしようとしている。</u></p>
話すこと (発表)	<p>[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を<u>理解</u>している。</p> <p>[技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について、<u>事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて話す技能を身に付けている。</u></p>	<p>コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、<u>事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話している。</u></p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、<u>聞き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いて発表しようとしている。</u></p>
書くこと	<p>[知識] 英語の特徴や決まりに関する事項を<u>理解</u>している。</p> <p>[技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について、<u>事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、またはそれらを正確に用いて書く技能を身に付けている。</u></p>	<p>コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題などについて、<u>事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、書いている。</u></p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、<u>聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いて書こうとしている。</u></p>

## 2 指導と評価の一体化のための評価資料作成例

(1) 単元名 まとまりのある文章の必要な情報を読み取ったり、概要や要点を捉えたりする。  
(第2学年)

### (2) 単元の目標

あるテーマについての英文を読んで概要、要点を捉えるとともに、その内容を基に自分の意見や考えを伝え合ったり、意見文を書いたりすることができる。

### (3) 単元の評価規準（「読むこと」の評価規準）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
読むこと	<p>&lt;知識&gt; ・比較表現や受け身に関する事項を理解している。</p> <p>&lt;技能&gt; ・比較表現や受け身などの意味や働きの理解を基に、英文の内容を読み取る技能を身に付けている。</p>	<p>あるテーマについての他者の意見を知り、自分の意見や考えを伝えるために、英文の概要、要点を捉えている。</p>	<p>あるテーマについての他者の意見を知り、自分の意見や考えを伝えるために、英文の概要、要点を捉えようとしている。</p>

※実際の評価に当たっては、他領域（「話すこと [やり取り]」など）の評価規準を設定することも考えられる。

(4) 「読むこと」に焦点をおいた単元の指導と評価の計画

時	ねらい	知	思	態
1	教科書本文から必要な情報を読み取り、読み取った内容を伝え合う。			
2				
3	教科書本文の要点を捉え、書き手の最も伝えたいことを伝え合う。			
4	教科書本文の概要や要点を捉え、伝え合う。			
5	教科書本文全体のテーマについて自分の考えなどを伝え合う。 ①教科書本文で比較表現がどのように使われているかを再度確認した上で、教科書本文全体のテーマに対する自分の考えを、本文に書かれていることを引用しながら、複数のペアと伝え合う。 ②伝え合ったことを踏まえ、自分の考えを再構築し、その内容を書く。			
<b>【10の視点】</b> <b>⑤説明・発表の機会の充実</b>		教科書本文を引用することによって、根拠を明確に示しながら自分の考えを筋道立てて説明することができる学習活動を設定しています。		
6	意見文を読んで、概要や要点を捉え、自分の感想や考えを伝え合う。		○	○
後日	ペーパーテスト	○	○	○

※記録に残す評価は行わないが、活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行います。



表中「○」が付されている時間は、極力全員の学習状況を記録に残すよう努めますが、確実に全員分の記録を残すのは後日行うペーパーテストの機会とします。なお、○が付されていない授業においても、指導の改善や生徒の学習改善に生かすために、生徒の学習状況を確認することは重要です。その確認結果は、単元や学期末の評価を総括する際に参考にすることができます。

(5) ペーパーテストの作成に当たって（作成方法）

- ①当該学年や当該単元の「読むこと」の目標を確認する。
- ②ペーパーテストで出題する問題により評価すること（概要を捉えること等）を、当該学期で指導した内容を踏まえて明確にする。
- ③評価することに応じてテストを作成する。テスト作成の際には、次の（ア）～（カ）の手順を参考にすることが考えられる。

（ア）評価することに適したテキストの種類を、以下の表を参考にするなどして決定する。その際、授業で扱った教科書本文のテキストの種類を生かすことに留意する。

必要な情報	広告、パンフレット、予定表、手紙、電子メール等
概要	時系列で書かれた短い説明、意見文、エッセイ、物語等
要点	社会的な話題に関する説明文、意見文、手紙、電子メール等

- （イ）テキストの種類に応じた文章を作成する。（ALTに作成を依頼する等）
- （ウ）作成した文章を、評価したいことに適した内容や構成になっているか等の観点から踏まえて確認する。
- （エ）問題を作成する。（以下は問題として考えられる例）

	解答形式	問題の種類
必要な情報	選択式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英文（プレゼンテーション原稿等）を読んで、適切な表やグラフを選ぶ問題</li> <li>・イベントのポスターから開催日時やタイムスケジュールを読んで、自分がどの時間帯に参加するかを決める問題</li> <li>・英文（アナウンス等）を読んで、聞き手が次に取るべき行動を選ぶ問題</li> <li>・イベント紹介のパンフレット等を読み自分の目的に合うものを選ぶ問題</li> </ul>
	記述式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書き手の状況や意向、疑問を読み取り、助言や感想を記述する問題</li> </ul>
概要	選択式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英文の概要に合う絵や図、グラフ、英文等を選ぶ問題</li> <li>・英文の概要に合うよう、絵や図等を並べ替える問題</li> <li>・英文の概要をまとめた別の文章を選ぶ問題</li> <li>・英文の概要に合うトピックとその順番を選ぶ問題</li> <li>・時系列で話されたり書かれたりしている英文の内容に合うよう、英文を並べ替える問題</li> </ul>
	記述式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英文の内容に合うように、表やグラフ等の空欄を単語等で埋める問題</li> <li>・英文の概要を書く問題</li> </ul>

		・英文全体の内容に合うようにタイトルを付ける問題
要点	選択式	・英文の要点に合う英文を選ぶ問題 ・英文の要点をまとめた別の文章を選ぶ問題
	記述式	・英文の重要な点に合うようにタイトルを付ける問題 ・英文の要点を書く問題 ・英文の要点について、自分の意見（賛否）とその理由を書く問題

(オ) 教師が実際に解くことで、問題の適切さを確認する。

(カ) 記述式の問題を作成した場合は、採点基準も作成する。



記述式の問題については、単語で書かせたり、2～3文程度の英文で書くことに留めたりして、「書くこと」の負担を軽減することが必要です。また、「書くこと」の能力を問う問題にならないよう採点基準の設定に留意することや、目的や場面、状況などを必ず設定することも重要なポイントです。

## (6) ペーパーテスト作成例 <「思考・判断・表現」を評価する問題>

あなたと健司は二人でプレゼンテーションの原稿と表を作成することになりました。

<原稿>

The other day, I watched a TV program. Some young people went to an island and had to survive there for three days. They could take only one thing to survive. What did they take? They took things like food, a picture of family members, a camera, a PC, a mobile phone and so on. Most people took water. The second largest number of people chose knives and the third most popular item was lighters. It was very interesting to me, so I asked my classmates. Let's look at the three most common answers they gave and the reasons for their answers.

Most people on the TV program chose water, but it wasn't the most popular item in my class. Six of my classmates chose water. They thought that they cannot survive without drinking water. They can catch fish and eat them, but they cannot drink seawater. Bottles of water are heavy but it's worth taking them.

A knife was the second most popular item both on TV and in my class. Seven of my classmates wanted to take a knife with them there. Why? They thought a knife is one of the most convenient tools. When they catch fish or get some fruit on the island, they can cut them with a knife easily.

A lighter was the third most popular item on TV, but it was the No.1 item in my class. Ten students wanted to take a lighter. They thought fire is the most important and necessary thing to survive. With a lighter, they can make a fire easily. They can keep warm and cook food. They said, "it can also be used to send an SOS to a helicopter."

Through this research, I learned that we all have different ways of thinking. What would you take to an island?

【問1】プレゼンテーションで下のような表を提示することになりました。表中のA、B、Cに入る語を1つずつ書きなさい。(A～C完答) ※「概要を捉えること」を評価する問題

	People on TV	Classmates
Most popular	Water	A
Second popular	Knife	B
Third popular	Lighter	C

(正解：A…Lighter, B…Knife, C…Water)

【問2】全校プレゼンテーション大会のプログラムに載せるために、このプレゼンテーションに付けるタイトルを、下から選びなさい。※「概要を捉えること」を評価する問題

- (1) The popular thing to research
- (2) The popular thing to use
- (3) The important thing to survive (正解)
- (4) The important thing to think



「概要を捉える」とは、物語などのまとまりのある文章を最初から最後まで読み、一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれることなく、登場人物の行動や心情の変化、全体のあらすじなど、書き手が述べていることの大まかな内容を捉えることです。語彙や文法に関する小問を細かく設定するのではなく、全体を捉えているかどうかを把握するための設問のみを1～2問設定することがポイントです。